

## わたしはわたしの神を求めて、渇く。あなたの慈しみは命にも勝る

まず、数回詩編 63 編を読もう。朗読したり、讃美歌を歌ったりすることと組み合わせると良い。この詩は初代教会で重んじられたという。主の日の礼拝の詩編朗誦で歌われた。この詩において心に留るのは、「神よ、あなたはわたしの神」と呼びかけているように、神と自分との間の、「あなた」と「わたし」の深い心の交わりの関係である。わたしたちは何を、誰を慕い（「あなたをお慕い申し上げます」とか「憧れる」とは何と奥ゆかしい和語であろうか 新生 622 参照）、探し求め、渇き求めるのだろうか？ 病い、老い、親であり子であれ、夫婦であれ、単身であれ、牧師であれ、信徒であれ、その他諸々の「孤独」の中で、わたしたちは最終的に誰を慕い求めるのであろうか？ 頭書（新共同訳 1 節）についてはサムエル記上 24:1 以下参照。

### 1. わたしの魂はあなたを渇き求めます（2 節）

「あなたとわたし」の親しい交わりの中でも時に神が疎遠に感じることもあろう。神の不在とも感じられる経験である。「荒野」（1 節 midbar）は、神の声を聴く場であるのかも知れない。ヘブライ語の「荒野」と「言葉」（dābār）が同義語であることは興味深い。詩人は助けのないそのような孤独の中で、鹿が谷川の水を求めるように（詩編 42）神を捜し求め、渇く。また降雨の少ないイスラエルでは干ばつで地が渇ききってしまうことがあるのであろう。そこで、私の肉体は（bašārī）は水の無い、渇き衰えた地で神を慕い求めると切なく歌う。

かつて指摘したように、イエス様は十字架の上で「わたしは渇く」（ヨハネ 19:28）と語り、深い神と人との断絶を味わい尽くされた。神だけではなく、人、弟子たちを慕い求める「渇き」を経験された。渇きを味わい尽くすこと、それが、キリストが成し遂げられたことであった。「渇く」と言われたお方によって神と人の間の断絶に橋がわたされた！

### 2. わたしの魂は満ちたりました（6 節）

「わたしの魂」の次の描写は、6 節にくる。詩人は聖なる場において、神を礼拝し、神の、「あなたの慈しみ（hasdekā loving kindness ヘセド）を発見し、神の美しきものはいのちよりも良い（tōwb）」と歌う。大切な命より神の慈しみは良いというのである！ 命を惜しんで失うものがあるのである。マルコ 8:35「自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのため、また、福音のために命を失う者は、それを救うのである」。その恵みと慈しみのゆえに、神よ、あなたをほめたたえます、と告白する。神の臨在の経験は豊かな「もてなし」を受けたという比喩で表現される。骨髓と脂（口語訳「髓と脂」）に飽き足りるように満足する。また、わたしはあなたの力と栄光を見ようと捜し求めると歌いあげている。自分の貧しさや弱さ、他者の問題性を見るだけではなく、神の力と栄光を見上げよう。

### 3. わたしの魂はあなたに従います（9 節）

9 節では「わたしの魂は」の三番目が登場し、「あなたに従います」と告白する。ここでは、あなたに「従う」（dābəqāh, follow chose）とある。口語訳「あなたにすがり付き」の方がリアルである。あなたの背後でも後ろからすがりつくというような想いが伝わってくる。

#### 4. み名とみ手

み名によって祈る＝あなたの名において私は両手を上げるであろう。(当時の祈りのポーズ)。手を高く上げて あなたの利き手、力のある右手 (yəmînekä) がわたしを支えてくれることを喜んでい  
る。つまり、神が遠く感じられ、あたかも不在であるかのように感じられても、神はみ名とみ手によ  
って人間とこの世界に関わってくださるのである。神の、あなたのみ翼の陰に私の助けがあるという  
聞きなれた比喻が繰り返される。翼の陰は暖かる、護られる、安全な場所なのであろう。それゆえ、  
私は喜ぶ！

#### 5. 祈りを口ずさむ (7 節)

夜ベッドの中であなた (神) をザコール (思い出す)。祈りにおいてあなた (神) を「口ずさむ」  
(‘ehgeh は黙想 (meditation) する、口語訳「深く思う」) のである。一日の辛い経験や孤独、ささや  
かな嬉しいことを思い起し、口ずさむというより、「あなたを」 (on you、 bāk)、慕いまつる神を思い  
出し、口ずさむ！

#### 6. 敵対者の自滅

信仰者は自分で報復せず、10 節、11 節にあるように敵対者が他者からの危害に遭っては滅びるのを  
「待つ」。「陰府」(当時人は天と地とその下に死んだ人がしばらく漂う「陰府」と 3 層構造で世界を考  
えていた。) ここでもエルサレム中心主義、王中心の詩編の信仰には自国中心的になる危険性があるこ  
とには警戒しよう。